

宇宙電波懇談会

事務局連絡 No. 4.

(東京天文台 宇宙電波部内)

1970 / 6 / 26

[1] 宇宙電波将来計画推進委員会

(1-1) 委員の選挙結果

事務局の不手際により投票用紙配布が一部で遅れ、
勝手ながら投票メ切を10日のぼししました。

開票は6月20日、東京天文台の渋谷氏主会のもとに
行なわれ、以下の結果が判明しました。

有効投票総数 298票 (投票者51名、白票6、無効2)

・ 海部 宣男	44
・ 早川 幸男	28
・ 鰐目 信三	22
・ 高窪 啓弥	20
・ 小川 英夫	20
・ 川尻 轟大	19
大谷 浩	18
河 鰐 公昭	14
佐藤 文隆	11

(以下 略)

よって、宇電懇選出の6名の委員は、以下のとおりです。

鰐目 (空電研)、小川 (名大・理)、海部 (東大・理)、
川尻 (電波研)、高窪 (東北大・理)、早川 (名大・理)。

(1-2) 天文研連、URSI-V 選出の委員

連絡 No. 3 既報のとおり、URSI-V は、赤羽 (東京
天文台)、田中 (空電研)、森本 (東京天文台) を委員に
選びました。天文研連委は、6月27日に会合を

開き、委員を選ぶ予定で、これで委員がそろ

ことになりす。(⇒ 27日、宮本 (京大)、末転 (東大)、古在 (天文台))

なお、東京天文台では、調査費 970万円 (初年度 300万円)

を、46年度概算要請として提出しました。

[2] 鹿島シンポジウム

準備委員の再度の検討の結果、日時、講演者(案)等が具体的に決まっております。折衝も始められています。日時は10月1, 2, 3日と内定。この線で鹿島電波研での準備もはじまっています。0次案を修正、具体化したプログラム案は次のとおりである。

	午前 9:30	午後 12:00	夜
1日(木)		装置の見学	観測の準備
2日(金)	座長 森本 • 開会の辞(石田) • SYMPO.の運営、意義について(座長) • 問題提起、講演 A. 世界的視野から見ると鹿島(小平) B. 実際の側面から見ると鹿島(海部) • 以上に関し DISCUSSION	座長 赤羽 • 鹿島に關する装置 A. アンテナ、受信系統(尾島) B. トリッキング、情報処理(橋本) コント: • 鹿島での研究 A. 鹿島グループ(川尻) B. 天竺台グループ(平林) • 一般、装置に關するDISCUSSION	懇親会
3日(土)	座長 川尻 • 観測、研究のPROPOSAL A. サバイ(川尻) B. LINEAR POLARIZATION(橋本) C. RECOMBINATION LINE(河野) D. 銀河BACKGROUNDノイズ(平林) E. 日食VLB(森本) F. Time Variation(田原太雄) • 関連する天体物理(田原) • 今後の研究についてのDISCUSSION	座長 森本 • 以上から、問題点を關し FREE DISCUSSION • まとめ(小平) • 閉会の辞(川尻)	

とくに書いてなくとも質疑、DISCUSSIONは自由におこなわれるものとします。

皆さんの意見や講演申し込みはいつでも引き受けまします。川尻(電波研)、平林(東大)、福井(名大)まで。

● 実際の装置、面での整備は、シンポジウム開催までには、一段と高まることが予想されています。

30mφアンテナに關しては、位相検波器からのアナログ出力をデジタル化することが行なわれ、

これによる情報処理の面での進歩や、アンテナなどの個性(ポインティング、風力エネキョウ

その他)の調査、新しい方法での観測の経験等も多くなることが予想されます。

● 交通に關しては、国鉄線が鹿島にも通することになる予定です。

→ 26mφアンテナに關しては、4GHz系の受信のメドが立ち、6GHz系も11月ごろにはめなり準備が進むでしょう。

[3] 「電波天文若手夏の学校」開催について

若手電波天文研究者の夏の学校が、若手大学院生を中心に第0回(1968年 宇部野)、第1回(1969年 池の平)と開催されてきたが、今年はますます開催の意義も高まったと判断し、日本の電波天文の研究、観測 etc. について斬新な議論をおこなうと計画。東大大学院の中に準備人(高柳、かぶら木(太陽電波)、平林(宇宙電波))が生まれ、まよりの意向などをとりまとめながら次のようなプログラム案をつけた。

場所：野辺山高原 (宿舎は近くの民宿の寮)

期日：7月~~23~~^{17,18}日 (SAMが7月19, 20, 21, 22日に海口で開催されるので、集まりやすいと考えた。)

	午前	午後	夜
17 日	野辺山太陽電波観測所 見学 (前日から集まる人もここに3) 集まってくる人もいる。	1:30 あいさつ (今回の意義、 会の方角について) 各地からの報告 (自己紹介、各地の動向、 装置など)	5:30 8:00 ~ 10:00 コンパ (全口研究者の 連帯を図る ため)
18 日	8:00 計論 (各地の研究計画の DISCUSSION)	12:00 1:00 電波天文全体の 将来計画 (15m計画、 その後のこと etc.)	3:00

各地の若手の親づきを探め、各自の研究の紹介を含め、あるいは各機関の観測装置の発表など、あるいは提案等を出して論をおこなうと思います。また今年からは会の集録をつくる前段階として、しゃべる人は内容を前もって、きまっておくきまった書式(FORMAT)でコピーしてきて、当日にみんなに配り、会が終わった時には数十ページの集録があるからできあがっているというようにしたいと思います。7月7日まで一応の出席の有無、意見等をあ寄せください。7月10日までにそれらに基づいて最終案を調整、書式等事務的なことをつけ加えて最終プログラムを送る予定です。

[4] 新入会者

長根 潔 (宮沢敬輔)、宮地 竹史 (東京立白)、栗原 (東大理)

鍋木 修 (東大理)、内藤 嘉春 (東大理)、塩見 靖彦 (東京天文台)